

琉球大学学術リポジトリ

[特集] 沖縄における人文地理学の歩み
(沖縄地理学会創立30周年記念公開シンポジウム)

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄地理学会 公開日: 2018-11-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堂前, 亮平 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017728

沖縄における人文地理学の歩み

堂前亮平

(久留米大学文学部)

Development of Human Geographical Studies on Okinawa

Ryouhei DOUMAE

(Faculty of Letters, Kurume University)

I はじめに

本稿は、沖縄に関わる事象を研究対象とした人文地理学（地誌学を含む）の歩みを概観するものである。研究の流れを歴史的に区分すると、4つの時期に分けられる。すなわち、1期：第二次世界大戦前、2期：戦後、1972年の沖縄の日本復帰（以下、日本復帰）まで、3期：日本復帰（1972年）から10年間、4期：沖縄地理学会発足（1982年）から現在までである。本稿では1期から4期までのそれぞれの時期における沖縄に関わる人文地理学研究の環境と主な研究成果について概観する。

II 沖縄における人文地理学の歩み

1. 1期：第二次世界大戦前

第二次世界大戦前の沖縄を研究対象地域とした人文地理学研究は、昭和の前期に日本の地理学界のなかで萌芽した¹⁾。主な研究として、武見芳二(1928)「沖縄島出移民の経済地理学的考察」、赤嶺康成(1939)「沖縄島の含密糖について」、富田芳郎(1939)「沖縄諸島の地理学的特質」、高原三郎(1939)「沖縄県下の集落」、仲松弥秀(1942)「琉球列島におけるマラリア病の地理学的研究」などがあげられる。これらの研究テーマは、現在においても研究がより深化して進められているものである。

このような系統地理学に先立ち、地誌学として山崎直方・佐藤伝蔵編『大日本地誌』（全10巻・明治36年～大正4年）が刊行され、沖縄の地誌が記述されている「琉球・台湾篇」は第10巻として1915年（大正4）に発行された²⁾。

2. 2期：戦後、日本復帰（1972年）まで

1950年に琉球大学が設立され、社会科学部史学及地理学科（初代地理学科主任赤嶺康成教授）が設置された。このことは沖縄における地理学研究の発展の礎となった。

1957年以降、伊藤郷平らの招聘教授の来沖があったことや、さらに1965年には日本地理学会が開催されたことなど、沖縄と本土との間に研究者の交流があったことは、双方の研究推進に大きな影響を与えた³⁾。

この時期における人文地理学研究の主たるものとしては、琉球大学の教員（仲松弥秀、田里友哲）による村落研究があげられる。すなわち、本土とは異なった沖縄の開拓集落や古い伝統的村落の特色を考察した研究である。

3. 3期：日本復帰（1972）から10年

日本復帰によって沖縄県外の研究者による沖縄を対象とする研究も見られるようになったが、主力は琉球大学の地理学教員である⁴⁾。この時代の人文地理学研究で特筆すべきものは、石川友紀を中心として琉球大学法文学部地理学教室スタッフが関わって進められた移民研究である。

また、島嶼地域研究が中山満らによって進められたほか、宮城眞宏は離島の架橋を取り上げた交通地理学研究を進めてきた。琉球大学教員による研究のほか、歴史地理学、文化地理学等の研究が沖縄県外の研究者によって行われた。

日本復帰後、系統地理学の研究が進む一方、地誌学では1975年に発行された青野壽郎・尾留川正平

沖縄県人社会における沖縄芸能の役割
 沖縄芸能の拠点としての川崎市
 三線奏者 N 氏のライフヒストリーから見る沖縄
 県人の社会空間変容

IV 結 び

本稿は、沖縄における人文地理学（地誌学を含む）の歩みを概観したものである。研究の歩みは 4 つの時期に分けられる。すなわち、1 期：第二次世界大戦前、2 期：戦後、日本復帰（1972 年）まで、3 期：日本復帰（1972 年）から 10 年間、4 期：沖縄地理学会発足（1982 年）から現在までである。

沖縄における地理学発展の礎となったのは、1950 年に琉球大学が設立され、社会科学部史学及地理学科（初代地理学科主任赤嶺康成教授）が設置されたことである。また、日本復帰時に沖縄国際大学が設立され、地理学教員の枠が確保され、その後の地理教員の増加に繋がったこともあげられよう。さらに日本復帰以降、県外の研究者が沖縄に注目してきたことや、一方で沖縄地理学会が設立され、沖縄県内の地理学研究が活発化してきたことなどが相俟って、沖縄に関する地理学研究の発信が増加してきたと思われる。

沖縄には人文地理学に関する研究素材が多く存在し、人文地理学の分野別研究テーマをみると多岐に亘るようになってきた。今後の課題をあげるならば、沖縄と同じ南西諸島地方に括られる奄美諸島を研究対象地域として、もっと取り込むことが肝要であると考えられる。

本稿は沖縄地理学会創立 30 周年記念シンポジウムで「沖縄における人文地理学の歩み」と題して発表した基調講演を基に修正を加えまとめたものである。

注

- 1) 田里友哲・石井孝之 1975. 第 6 章 地理学. 沖縄県教育委員会編『沖縄県史 5 文化 I 』
- 2) 琉球については、3 編から構成されている。第 1 編地文、第 2 編人文、第 3 編地方誌であり、第 1 編地文では第 1 章地形、第 2 章海洋並びに海流、第 3 章地質、第 4 章気象、第 2 編人文では第 1 章沿革、第 2 章政治宗教、第 3 章産業、

第 3 編地方誌 1 沖縄島、2 宮古諸島、3 八重山諸島である。

- 3) 日本復帰前に県外の地理学者による沖縄研究も僅かながら行われていた。例えば、田中啓爾は沖縄本島を調査し、沖縄の地理的性格を明らかにした。また、正井泰夫は日本地理学会のエクスカージョンで沖縄本島、宮古島、石垣島をし、当時の沖縄各地を地理学者の視点から多くの写真に収めている。
- 4) この時期の沖縄に関する地理学研究の状況について、筆者は沖縄の日本復帰 10 年目に「復帰 10 年の沖縄学 その総括と展望 地理学（上）（中）（下）」と題して、琉球新報（1982 年 3 月 5 日、3 月 6 日、3 月 7 日）に掲載した。
- 5) 青野壽郎・尾留川正平共編『日本地誌』全 21 巻は、1967 年「東京都」から発刊され、1980 年「日本総論」で完結した。沖縄県については、第 21 巻「大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県」（1975 年）に掲載されている。構成は県総説と県内地域誌からなる。
- 6) 雑誌記事索引集成データベース「ざっさくプラス」（<http://zassaku-plus.com>）最終閲覧日 2012 年 10 月 29 日による。日本復帰（1972 年）以降 検索結果 388 件。
- 7) 1991 年に日本地理学会「社会地理学の理論と課題」作業グループが発足し、社会地理学への関心が高まってきた。

文 献（発表年順）

- 武見芳二（1928）：沖縄島出移民の経済地理学的考察。地理学評論 4-2・3.
- 赤嶺康成（1939）：沖縄島の含蜜糖について。地理 2-1.
- 富田芳郎（1939）：沖縄諸島の地理学的特質。地理学 7.
- 高原三郎（1939）：沖縄県下の集落。地理学 7-7・7-8.
- 仲松弥秀（1942）：琉球列島におけるマラリア病の地理学的研究。地理学評論 18.
- 田中啓爾（1962）：沖縄の地理的性格。田中啓爾地域的論文集第二集。日本書院。
- 田里友哲・石井孝之（1975）：第 6 章 地理学。沖縄県教育委員会編『沖縄県史 5 文化 I 』
- 仲松弥秀（1977）：『古層の村 — 沖縄民俗文化論』沖縄タイムス社。
- 宮城真宏（1979）：野甫大橋架橋の野甫村落への衝撃。琉球大学教育学部紀要 23.
- 田里友哲（1980）：沖縄における開拓集落の研究。琉球大学法文学部紀要（史学・地理学編） 23.
- 島袋伸三・米盛盛市（1982）：ブラジルにおける沖縄県出身

- 移民の職業変遷 — 農業を中心に. 琉球大学法文学部紀要 (史学・地理学編) 25.
- 町田宗博 (1983) 沖縄本島中部における軍用地接收移動集落の一考察. 琉球大学法文学部紀要 (史学・地理学編) 26.
- 渡久地健・高田普久男 (1991) 小離島における空間認識の一側面 (I) — 久高島のサンゴ礁地形と民俗分類 —. 沖縄地理 3.
- サンゴ礁地域研究グループ (1992) 『熱い心の島 — サンゴ礁の風土記』 古今書院.
- 大城直樹 (1992) 村落景観の社会性 — 沖縄本島北部の祭祀施設の場合. 歴史地理学 6.
- 中山 満 (1992) 大東諸島への居住についての若干の検討 — 南米沖縄移民と関連して —. 琉球大学法文学部紀要 (史学・地理学編) 35.
- 池野 茂 (1994) 『山原船 (水運の展開)』 ロマン書房.
- 永田淳嗣 (1995) 沖縄・多良間島のサトウキビ農業の動態 — 天川部落農家群の変動を中心に. 東京大学教養学部人文科学科紀要 101.
- 石川友紀 (1997) 『日本移民の地理学的研究』 榕樹書林.
- 堂前亮平 (1997) 『沖縄の都市空間』 古今書院.
- 賀納章雄 (2000) 沖縄県渡名喜島・粟国島における伝統的作物キビの復活とその背景. 人文地理 52-1.
- 上江洲薫 (2001) 観光地域における企業の土地所有と観光開発の展開: 沖縄県恩納村を事例として. 人文地理 53-5.
- 渡邊康志 (2001) GIS ソフトを利用した空間分布の復元 — 戦没者名簿より —. 南島文化 24.
- 森眞一郎 (2004) 沖縄県伊平屋村における養殖モズク生産労働をささえる地域的条件. 新地理 52-3.
- 宮内久光 (2006) 沖縄県離島地域における就業構造の特徴と人口変化. 沖縄地理 7.
- 新井詳穂・永田淳嗣 (2006) 沖縄・石垣島の土地改良事業の停滞. 地理学評論 79-4.
- 宮崎沙織 (2006) 沖縄県小浜島における地域行事と子どもの地域認識: 伝統文化の側面から. 新地理 54-3.
- 漆原和子・乙幡康之 (2007) 沖縄県渡名喜島における屋敷囲いの特色とその変遷. 季刊地理学 59-2.
- 沖縄県教育委員会 (2007) 『沖縄県史 図説編 県土のすがた』.
- 上江洲朝彦 (2008) 沖縄都市モノレール沿線地域における開通後の土地利用の変容. 経済地理学年報 54-1.
- 鉾塚堅太郎 (2008) 沖縄におけるコールセンター立地と知識の獲得. 地理科学 63-3.
- 堀本雅章 (2008) 那覇市旧首里における雑貨店の分布と立地の変化. 沖縄地理 8.
- 山口 覚 (2008) 『出郷者たちの都市空間』 ミネルヴァ書房.
- 吉田容子 (2008) 戦後復興期における「特飲街」の形成と都市空間の秩序 — 沖縄県旧コザ市を事例として. 人文地理 60-1.
- 仲田邦彦 (2009) 『沖縄県の地理』 編集工房東洋企画.
- 石丸哲史 (2010) 沖縄県における公的部門によるビジネス支援と人材育成. 沖縄地理 10.
- 小川 護 (2010) 沖縄本島 (伊江島を含む) と沖永良部島におけるキク類生産と地域分化. 大塚昌利編著『地域の諸相』 55-64. 古今書院.
- 崎浜 靖 (2010) マラリア有病地の地理的性格 — 宮古島・東仲宗根添を事例として —. 大塚昌利編著『地域の諸相』 197-211. 古今書院.
- 堂前亮平 (2010) 川崎市における沖縄県出身者の社会空間変容に関わる沖縄芸能. 大塚昌利編著『地域の諸相』 212-221. 古今書院.
- 中島弘二 (2010) 沖縄における自然保護と基地反対運動. 地理科学 65-3.
- 加藤政洋 (2011) 『那覇 戦後の都市復興と歓楽街』 フォレスト.
- 前畑明美 (2011) 沖縄・古宇利島における架橋化による社会変容. 人文地理 63-4.
- 堂前亮平 (2012) 沖縄に関わる社会空間の特性. 地域研究 52 (1・2) :1-10.
- 野澤秀樹・堂前亮平・手塚章編 (2012) 『日本の地誌 九州・沖縄』 朝倉書店.
- 平岡昭利 (2012) 『アホウドリと「帝国」日本の拡大』 赤石書店.
- 正井泰夫 (2012) 沖縄の地理色彩景観. 南島文化 34.
- 若林芳樹・久木元美琴・由井義通 (2012) 沖縄県那覇市の保育サービス供給体制における認可外保育所の役割. 経済地理学年報 58-2.